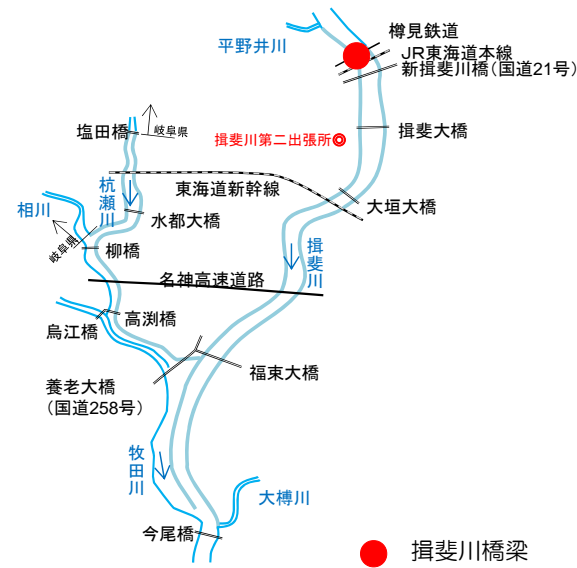


位置図



重厚なトラスが雄大な『揖斐川橋梁（樽見鉄道樽見線）』

- 岐阜県大垣市と安八郡安八町を結び、揖斐川に架かる揖斐川橋梁は、樽見鉄道の鉄道橋として、1956年（昭和31年）に開通しました。全部で6連の橋梁となっていますが、よく見ますと、大垣市側の1連のみが平行弦トラスで、その他の2～6連とは構造が異なっていることが分かります。その理由として、こんな歴史的背景がありました。
- 樽見鉄道の前身である国鉄樽見線の着工は1935年（昭和10年）。いったんは揖斐川橋梁は新造の橋として建設が行われました。しかし、太平洋戦争により、1941年（昭和16年）に工事は中止となり、完成間近の揖斐川橋梁は戦時不要路線として撤去。その後、戦後に工事を再開しましたが、資材不足であったため、他の橋梁を転用し再利用して造られたのが、今の揖斐川橋梁というわけです。
- 転用元は、神奈川県小田原市の国府津駅と静岡県沼津市の沼津駅を結び御殿場線にあった計5カ所の橋梁。これらの橋梁は、現在の御殿場線が東海道本線とされていた当時に複線化に伴って設置されたものですが、その後、丹那トンネルの開通により東海道本線のメインルートは、そちら経由となり、御殿場線はローカル輸送を担うことになりました。戦時中の資材不足の折、他路線建設のためにレールを供出するために御殿場線が単線化された際に、これらの橋梁群は使用が停止、ついには1944年（昭和19年）には用途廃止。その時に撤去されたのはレールのみで、橋梁はそのまま放置されていたものを、戦後の樽見鉄道建設に際して、揖斐川の渡河部に6連の橋梁として転用されました。

このような事情があり、構造が異なったタイプのトラスが混在する橋梁になったそうです。【出典：樽見鉄道10年史（樽見鉄道株式会社、1994）】

